

平成29年度決算 財務書類の概要

平成31年3月

福井県総務部財務企画課

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

財務書類の構成について

1. 貸借対照表（BS）

貸借対照表は基準日時点における財政状態（資産・負債・純資産の残高及び内訳）を表示したものです。

2. 行政コスト計算書（PL）

一会計期間中の費用・収益の取引高を表示したものです。
現金収支を伴わない費用や損失（減価償却費、各種引当金繰入額等）も計上しています。

3. 純資産変動計算書（NW）

純資産変動計算書は、一会計期間中の純資産（及びその内部構成）の変動を表示したものです。

4. 資金収支計算書（CF）

一会計期間中の現金の受払いを、「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の区分により表示したものです。

貸借対照表（一般会計等）について

■ 貸借対照表（一般会計等）概要

単位：百万円

【固定資産】
事業のために所有している資産等

- 「事業用資産」
学校、博物館等
県民生活に関する資産
- 「インフラ資産」
道路等の社会
基盤となる資産

【流動資産】
1年以内に現金化する資産

- 「現金預金」
- 「基金」
基金残高のうち、
予期しない支出に
備えるため積立て
ているもの

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	1,719,916	固定負債	928,206
事業用資産	223,136	地方債	804,743
インフラ資産	1,302,149	その他	123,463
その他	194,631	流動負債	66,256
流動資産	24,886	地方債	55,673
現金預金	12,427	その他	10,583
基金	10,056	負債の部合計	994,462
その他	2,403	純資産の部合計	750,340
資産の部合計	1,744,802	負債及び 純資産の部 合計	1,744,802

【固定負債】
流動負債以外の負債

- 「地方債」
平成31年度以降に
返済する地方債

【流動負債】
1年以内に支払うべき負債

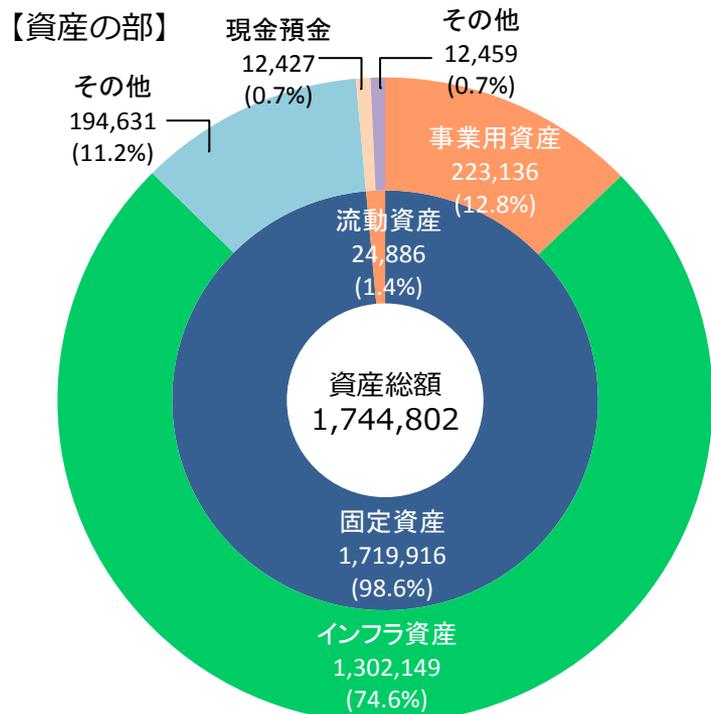
- 「地方債」
平成30年度に返済
する地方債

【純資産】
資産の総額から
負債額を差し引いた
正味の財産

貸借対照表（一般会計等）について

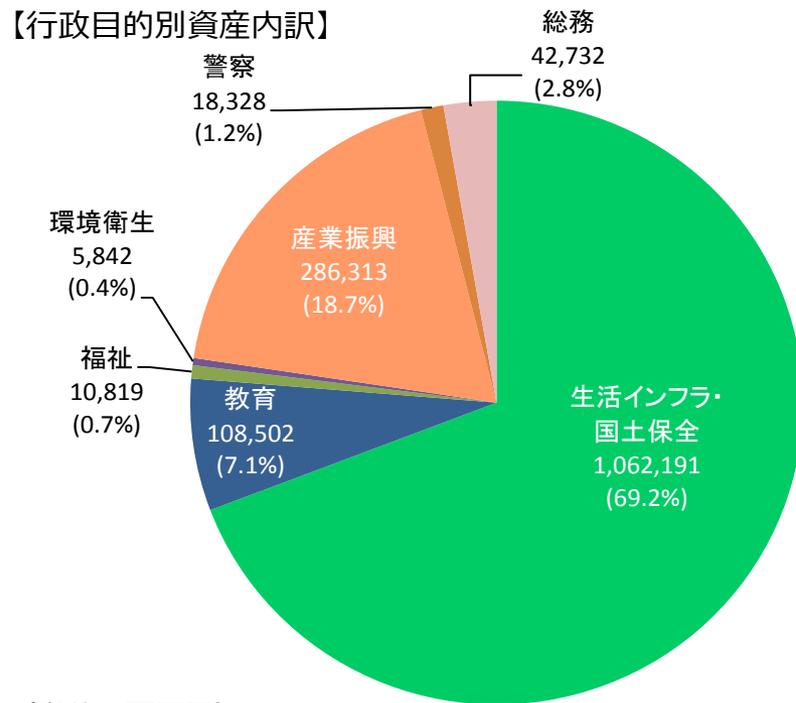
■ 貸借対照表（一般会計等）資産の構成

資産の合計は約1兆7,200億円であり、学校や博物館等の「事業用資産」と道路等の「インフラ資産」が約9割を占めています。



(単位：百万円)

行政目的別には、道路等の「生活インフラ等」が約1兆622億円と約7割を占めており、次いで農業施設や産業振興施設等の「産業振興」が約2,863億円と約2割を占めています。

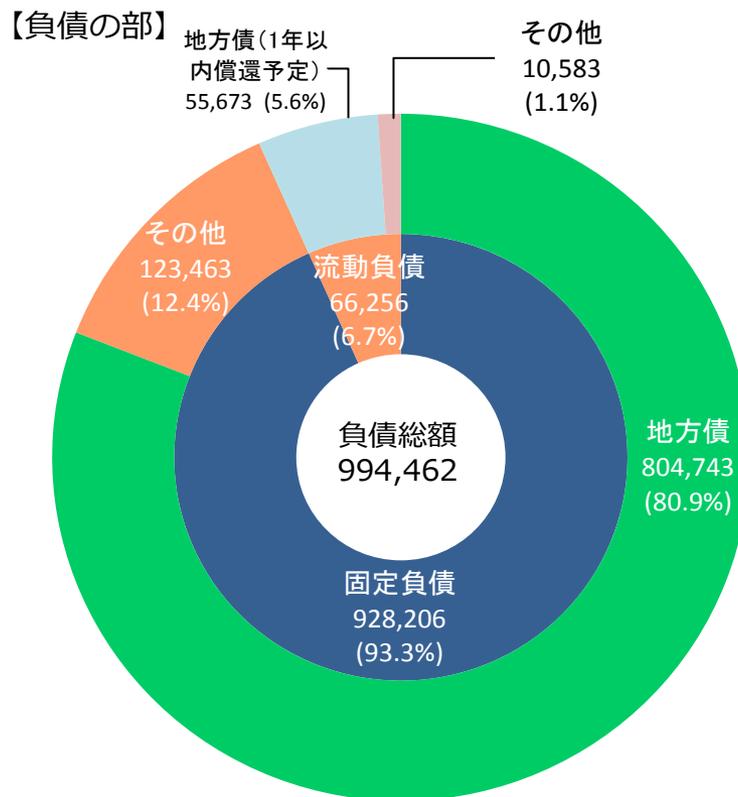


(単位：百万円)

貸借対照表（一般会計等）について

■ 貸借対照表（一般会計等）負債の構成

負債は合計で約9,945億円であり、道路や学校などの公共施設等を整備するための借入である「地方債」が約9割を占めています。



(単位：百万円)

■ 資産老朽化比率について

資産老朽化比率（資産の取得価格に対し、減価償却累計額の占める割合）が50%を超えています。

	取得価格	減価償却累計額	資産老朽化比率
建物	316,274百万円	185,686百万円	58.7%
事業用	254,513百万円	147,410百万円	57.9%
インフラ	61,761百万円	38,276百万円	62.0%
工作物	2,717,206百万円	1,606,592百万円	59.1%
事業用	15,781百万円	10,389百万円	65.8%
インフラ	2,701,425百万円	1,596,203百万円	59.1%
合計	3,033,480百万円	1,792,278百万円	59.1%

■ 県民1人当たり資産・負債等について

県民1人あたり、2,216千円の資産がある一方、1,263千円の借金（負債）があります。

昨年度から資産は14千円増加し、負債は9千円減少しました。

単位：千円

資産	負債
2,216 (2,202)	1,263(1,272)
	純資産
	953(930)

※ () 内は昨年度、H29、H30年3月末住民基本台帳人口により算出

行政コスト計算書（一般会計等）について

■ 行政コスト計算書（一般会計等）概要

単位：百万円

【経常費用】
日常の行政サービス
にかかるコスト

- 「人件費」
職員給与費等
- 「物件費等」
施設運営費や維持
補修等
※減価償却費を含む
- 「移転費用」
扶助費(生活保護
費等)や他団体等
への補助費等

【経常収益】
日常の行政サービス
実施の財源となる
収益

- 「使用料及び手数料」
施設の使用料や旅
券発給手数料等

科目	金額	科目	金額
経常費用	388,044	臨時損失	1,593
人件費	121,806	災害復旧費	1,571
物件費等	111,877	投資損失 引当金繰入額	—
移転費用	144,414	損失補償等 引当金繰入額	—
その他	9,947	その他	22
経常収益	27,000	臨時利益	318
使用料及び手数料	5,559	資産売却益	318
その他	21,441		
純経常行政コスト (経常収支)	361,044	純行政コスト	362,319

【臨時損失】
災害等により臨時に
発生するコスト

- 「災害復旧費」
災害発生時の
復旧にかかる費用
- 「投資損失引当金
繰入額」
出資法人等に対す
る出資が回収不能
となるリスクへの
備えとしての引当
- 「損失補償引当金
繰入額」
第三セクター等へ
の損失補償のうち
将来負担が見込ま
れる額を引当

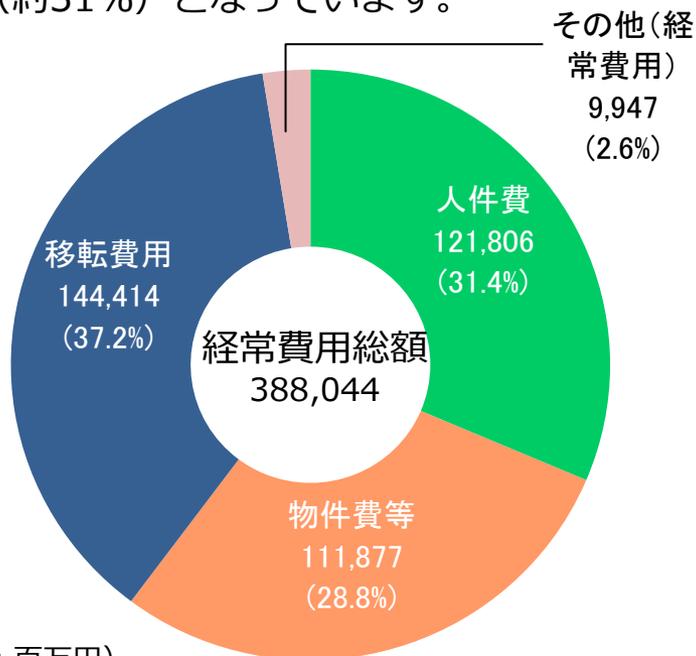
【臨時利益】
●「資産売却益」
資産を売却した
ことに伴う収益

行政コスト計算書（一般会計等）について

■ 経常費用概要

経常費用の合計は約3,880億円であり、扶助費や補助費等の「移転費用」が最も大きな割合を占め、約1,444億円（約37%）となっています。

次いで職員給与費等の「人件費」が、約1,218億円（約31%）となっています。



(単位：百万円)

■ 県民1人当たりの行政コスト

日常的な行政サービスの提供にあたり、県民1人あたり、493千円負担しています。

北陸新幹線建設に伴う負担金の増加等に伴い、昨年度から移転費用が増加しました。

単位：千円

	H28	H29	差額
人件費	148	155	+7
物件費等	147	142	△5
移転費用	170	183	+13
その他（経常費用）	12	13	+1
合計	477	493	+16

※H29、H30年3月末住民基本台帳人口により算出

純資産変動計算書（一般会計等）について

単位：百万円

前年度末純資産残高	736,403
本年度中の変動額	13,937
純行政コスト	△362,319
財源	345,098
税金等	271,253
国県等補助金	73,845
その他	31,127
資産評価差額	141
その他	31,017
本年度末純資産残高	750,340

【純行政コスト】
 行政コスト計算書の純行政コスト
 →純資産の減少要因

【財源】
 県税や国庫補助金等
 →純資産の増加要因

【その他】
 県保有資産の評価変動による差額や寄附、除却等による資産残高の変動額
 →純資産の増減要因

資金収支計算書（一般会計等）について

■ 資金収支計算書（一般会計等）概要

単位：百万円

【業務活動収支】

日常的な行政サービスの実施に要する収入と支出のほか、投資活動や財務活動以外の取引による現金の収支

【29年度の状況】

県税などの業務収入が業務支出を上回っており、収支差額はプラス

【投資活動収支】

固定資産の売却による収入や固定資産の取得のための支出などによる現金の収支

【29年度の状況】

国庫補助金や資産売却等の収入に対し資産取得に要した支出が多く、収支差額はマイナス

科目	金額	科目	金額
業務支出	326,259	財務活動支出	66,585
業務費用支出	181,845	財務活動収入	60,843
移転費用支出	144,414	財務活動収支	△5,742
業務収入	351,524	資金収支額	2,352
臨時支出	1,571	前年度末資金残高	7,827
臨時収入	885	本年度末資金残高	10,179
業務活動収支	24,579	本年度末歳計外現金残高	2,248
投資活動支出	56,803	本年度末現金預金残高	12,427
投資活動収入	40,318		
投資活動収支	△16,485		

【本年度現金預金残高】
歳計外現金を加えた現金預金残高

【財務活動収支】

県債の発行による収入や県債の返済のための支出などによる現金の収支

【29年度の状況】

県債の発行などによる収入よりも県債の返済などの支出が多く、収支差額はマイナス（借入残高が減少）

【資金収支額】

収支差額を合計した金額であり、歳計現金の増減額を示すもの

【29年度の状況】

資金収支額はプラスであり、歳計現金が増加